

## 調査

## 福島ファイヤーボンズの 経済波及効果について

チームロゴ



### <要 旨>

福島ファイヤーボンズの2014-15年シーズン新規参戦が福島県内に及ぼす経済波及効果は、チーム運営費の支出による効果と来場者の消費支出による効果を合わせ、合計5億10百万円に上るものと推計される。

チーム運営費の支出による効果	82百万円
来場者の消費支出による効果	4億28百万円
総合効果	5億10百万円

### はじめに

2005年11月、日本におけるバスケットボールの活性化や地域社会におけるスポーツ文化の向上などを目指し、日本プロバスケットボールリーグ（通称bjリーグ）が開幕した。そして、このbjリーグの2014-15年シーズンより、福島県を本拠地とする「福島ファイヤーボンズ」が22番目のチームとして参戦する。リーグはイースタン・カンファレンス12チームとウェスタン・カンファレンス10チームに分かれ、プレイオフ進出を目指し10月よりレギュラーシーズンが開幕する。

チーム名である「ファイヤーボンズ」は、燃え上がる闘志「ファイヤー」と「絆」「結束」を意味する英語“Bonds”「ボンズ」をつなげ名付けられたものである。また、チームカラーのフクシャパープルは、「福島の幸せ」から連想したフクシアの花の色から採用されている。そして、ファイヤーボンズのオフィシャルキャラクターは、福島県の鳥「キビタキ」をモチーフに、親しみやすく強そうなイメージにデザインされ、「ボンズくん」と名付けられた。

「bjリーグ宣言」の中には次のような項目がある。

「ブースター\*イベント、スクール・クリニック等、選手も参加する地元ブースターとのイベントを充実させ支持基盤を強化・拡大する地域密着型の総合スポーツクラブを目指す。将来的にはバスケットボール以外の競技のクラブと連携・協力する。地域住民に幅広いスポーツ文化を提供する。」

本県にとっては、単にひとつのチームが誕生しただけではなく、バスケットボールというスポーツを通じて県内復興につなげる期待を担っていると言える。本稿では、「福島ファイヤーボンズ」の参戦により県内にもたらされる経済波及効果について推計した。

\*バスケットのコアファンを「ブースター」と呼ぶ



オフィシャルキャラクター「ボンズくん」

bjリーグのチーム一覧

イースタン・カンファレンス

	チーム名	参入年
①	青森ワッツ	2013年
②	岩手ビッグブルズ	2011年
③	秋田ノーザンハピネッツ	2010年
④	仙台89ERS	2005年
⑤	福島ファイヤーボンズ	2014年
⑥	新潟アルビレックス BB	2005年
⑦	富山グラウジーズ	2006年
⑧	信州ブレイブウォリアーズ	2011年
⑨	群馬クレインサンダーズ	2012年
⑩	埼玉ブロンコス	2005年
⑪	東京サンレーヴス	2012年
⑫	横浜ビー・コルセアーズ	2011年

ウェスタン・カンファレンス

	チーム名	参入年
①	浜松・東三河フェニックス	2008年
②	滋賀レイクスターズ	2008年
③	京都ハンナリーズ	2009年
④	大阪エヴェッサ	2005年
⑤	バンビシャス奈良	2013年
⑥	島根スサノオマジック	2010年
⑦	高松ファイブアローズ	2006年
⑧	ライジング福岡	2007年
⑨	大分ヒートデビルズ	2005年
⑩	琉球ゴールデンキングス	2007年

## 1. 試算の概要

今回の試算は、福島ファイヤーボンズのチーム運営にかかる支出とホームゲーム26試合における来場者の消費活動という両面から推計を行った。チーム運営費や来場者数に関しては、経営母体である福島スポーツエンタテインメント株式会社から提供を受けた事業計画の資料をもとに設定した。また来場者の消費活動については、観光庁「共通基準による観光客入込客統計」、国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する研究Ⅸ」などを参考にし、「平成17年（2005年）福島県産業連関表（36部門表）」を使い、経済波及効果を推計した。

## 2. チーム運営費の支出による経済波及効果

チーム運営費については、ファイヤーボンズの2014-15年シーズンに要するとみられる会場使用

料・設営費、移動費、人件費などから推計した（チーム運営費については非公表）。チーム運営費の支出に自給率を乗じて求められる直接効果は59百万円と推計した。

第一次波及効果は、直接効果59百万円をもとに逆行列係数により算出し、生産誘発額が15百万円と推計される。また、直接効果・第一次波及効果により増加する雇用者所得・家計消費支出がもたらす第二次波及効果は8百万円となり、これらを合わせた総合効果は82百万円と推計される。また、粗付加価値誘発額が48百万円、雇用者所得誘発額が22百万円と推計される（図表1）。

ファイヤーボンズは、ローコストオペレーションを実践し、チーム運営費を他チームの半分以下に抑え戦うことを目指している。それ故、通常であればイベントの企画・演出など外部に委託する部分についても、大半が職員の手作りによって運営されている。まさに「県民が自らの手で支えるチーム」となる姿がイメージされる。

図表1 チーム運営費の支出による経済波及効果

（単位：百万円）

	生産誘発額	粗付加価値額 誘発	雇用者所得額 誘発
直接効果	59	34	16
第1次波及効果	15	8	4
第2次波及効果	8	6	2
総合効果	82	48	22

### 3. 来場者の消費活動による経済波及効果

#### (1) 来場者の宿泊・日帰り内訳

bjリーグ2013-14年レギュラーシーズンの1試合平均来場者数は1,596人であることから、2014-15年シーズンにおける来場者数を1,600人とし、対戦相手の選手・関係者は1試合20人と設定した。これにより、ホームゲーム26試合の来場者と選手・関係者の合計は、1,620人×26試合=42,120人となる。

来場者1,600人については、他シンクタンクで公表している実績データを参考に、98%を県内客、2%を県外客とする。さらに、1つの会場で2日間の開催となるスケジュールにより宿泊が想定されることから、県内客（宿泊0.5%、日帰り99.5%）、県外客（宿泊95%、日帰り5%）とそれぞれ設定した（選手・関係者は全員宿泊）。この振り分けにより設定した来場者の内訳が図表2の通りである。

#### (2) 来場者の消費支出額の推計

来場者の1人当たり消費支出額は、観光庁「共通基準による観光入込客統計」の平成24年1月～平成25年6月における福島県の観光客1人当たり

平均消費支出額より算出した（図表3）。これに図表2の来場者内訳の人数をそれぞれ掛け合わせ算出した来場者の消費支出総額は2億98百万円となった（図表4）。

#### (3) 直接効果の算出

国土交通省の「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究Ⅸ」の調査結果より、県内・県外、宿泊・日帰り別の消費支出額を業種別（36部門）

図表2 ホームゲーム26試合における来場者内訳（単位：人）

	県内客	県外客	選手・関係者	合計
宿泊	204	790	520	1,514
日帰り	40,564	42	-	40,606
合計	40,768	832	520	42,120

図表3 福島県観光客の1人当たり消費支出額（単位：円）

	宿泊	日帰り
県内	18,255	6,342
県外	27,983	10,542

観光庁：共通基準による観光入込客統計（平成24年1月～平成25年6月平均）より算出

図表4 来場者の消費支出総額（単位：百万円）

	宿泊	日帰り	合計
県内	4	257	261
県外	37	0	37
合計	40	258	298



2014-2015 プレシーズンゲーム  
東北カップ1回戦 対岩手ビッグブルズ戦  
(9月13日 田村市総合体育館)

に振り分ける（図表5）。次に、産業連関分析は生産者価格ベースを行うことから、図表5の消費支出額より商業マージン・運賃マージンを控除し生産者価格に転換させる（図表6）。その上で県内自給率を乗じて求められる直接効果は1億66百万円となる（図表7）。

(4) 波及効果の算出

第一次波及効果は、直接効果1億66百万円をもとに逆行列係数により算出し生産誘発額2億11百万円と推計される。また直接効果・第一次波及効果により増加する雇用者所得・家計消費支出がもたらす第二次波及効果は51百万円となり、これらを合わせた総合効果は4億28百万円と推計され

図表5 来場者の業種別消費支出額（購入者価格）

（単位：万円）

	県 内		県 外		合 計
	宿 泊	日 帰 り	宿 泊	日 帰 り	
01 農業	2	358	23	1	384
02 林業	0	0	0	0	0
03 漁業	4	268	38	0	310
04 鉱業	0	0	0	0	0
05 飲食料品	45	4,074	443	7	4,568
06 繊維製品	19	1,554	192	3	1,768
07 パルプ・紙・木製品	0	29	4	0	34
08 化学製品	3	148	28	0	179
09 石油・石炭製品	16	2,269	159	4	2,448
10 窯業・土石製品	1	92	10	0	104
11 鉄鋼	0	0	0	0	0
12 非鉄金属	0	0	0	0	0
13 金属製品	0	0	0	0	0
14 一般機械	0	0	0	0	0
15 電気機械	2	111	17	0	130
16 情報・通信機器	0	0	0	0	0
17 電子部品	0	0	0	0	0
18 輸送機械	0	0	0	0	0
19 精密機械	5	462	51	1	519
20 その他の製造工業製品	13	922	125	2	1,062
21 建設	0	0	0	0	0
22 電力・ガス・熱供給	0	0	0	0	0
23 水道・廃棄物処理	0	0	0	0	0
24 商業	0	0	0	0	0
25 金融・保険	0	0	0	0	0
26 不動産	0	0	0	0	0
27 運輸	142	9,726	1,402	17	11,287
28 情報通信	1	123	8	0	133
29 公務	0	0	0	0	0
30 教育・研究	2	233	21	0	256
31 医療・保健・社会保障・介護	1	21	12	0	33
32 その他の公共サービス	1	114	11	0	127
33 対事業所サービス	4	176	41	0	221
34 対個人サービス	110	5,046	1,082	9	6,246
35 事務用品	0	0	0	0	0
36 分類不明	0	0	0	0	0
合 計	372	25,727	3,667	44	29,810

国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究IX」より作成

る。また、粗付加価値誘発額が2億35百万円、雇  
用者所得誘発額が1億33百万円と推計される（図  
表8）。

#### 4. まとめ

以上の試算結果から、チームの運営費支出額及

び来場者の消費支出より算出されるそれぞれの経  
済波及効果を合算した総合効果は、生産誘発額が  
5億10百万円、粗付加価値誘発額が2億83百万円、  
雇用者所得誘発額が1億54百万円と推計される  
（図表9）。

震災後の県内では、屋外活動を制限されている

図表6 来場者の消費支出額の生産者価格算出

（単位：万円）

		来場者の 消費支出額 (購入者価格)	商 業 マージン率	運 賃 マージン率	商 業 マージン	運 賃 マージン	マージン計	来場者の 消費支出額 (生産者価格)
01	農業	384	0.21370	0.04560	82	17	99	284
02	林業	0	0.12064	0.02411	0	0	0	0
03	漁業	310	0.32251	0.03087	100	10	110	201
04	鉱業	0	0.03005	0.06684	0	0	0	0
05	飲食料品	4,568	0.31134	0.03446	1,422	157	1,580	2,989
06	繊維製品	1,768	0.40116	0.02511	709	44	753	1,014
07	パルプ・紙・木製品	34	0.22279	0.06343	8	2	10	24
08	化学製品	179	0.19362	0.02744	35	5	40	140
09	石油・石炭製品	2,448	0.23480	0.02033	575	50	625	1,824
10	窯業・土石製品	104	0.19044	0.05646	20	6	26	78
11	鉄鋼	0	0.07895	0.02922	0	0	0	0
12	非鉄金属	0	0.11086	0.03150	0	0	0	0
13	金属製品	0	0.13660	0.05165	0	0	0	0
14	一般機械	0	0.18929	0.01234	0	0	0	0
15	電気機械	130	0.25276	0.00928	33	1	34	96
16	情報・通信機器	0	0.28262	0.00775	0	0	0	0
17	電子部品	0	0.09889	0.00999	0	0	0	0
18	輸送機械	0	0.15955	0.01534	0	0	0	0
19	精密機械	519	0.29561	0.01162	153	6	159	360
20	その他の製造工業製品	1,062	0.22277	0.03450	236	37	273	788
21	建設	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
22	電力・ガス・熱供給	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
23	水道・廃棄物処理	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
24	商業	0	△42.68031	0.00000	△3,382	0	△3,382	3,382
25	金融・保険	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
26	不動産	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
27	運輸	11,287	0.00000	△0.35305	0	△336	△336	11,624
28	情報通信	133	0.06014	0.00548	8	1	9	124
29	公務	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
30	教育・研究	256	0.00000	0.00000	0	0	0	256
31	医療・保健・社会保障・介護	33	0.00000	0.00000	0	0	0	33
32	その他の公共サービス	127	0.00000	0.00000	0	0	0	127
33	対事業所サービス	221	0.00341	0.00013	1	0	1	220
34	対個人サービス	6,246	0.00002	0.00001	0	0	0	6,246
35	事務用品	0	0.00000	0.00000	0	0	0	0
36	分類不明	0	0.02623	0.01597	0	0	0	0
合 計		29,810			0	0	0	29,810

総務省「平成17年産業連関表」より作成

子供たちの運動不足が指摘されるなど、思う存分スポーツを楽しむ環境が整備されているとは言い難い状況が続いている。福島ファイヤーボンズの選手によるハツラツとしたプレーは、そのような子供たちを大いに元気づけてくれるものと思われる。また、東北では宮城、秋田、岩手、青森の各

県で、また隣県でも新潟、群馬県において既にbjリーグのチームが誕生している。

福島ファイヤーボンズの加入によりスポーツ全般を通じた地域間の交流が促進され、福島の元気な姿をアピールすることにより、復興に弾みがつくことを期待したい。(担当：木村)

図表7 直接効果の算出

(単位：万円)

		来場者の消費支出額 (生産者価格)	県自給内率	直接効果			来場者の消費支出額 (生産者価格)	県自給内率	直接効果
01	農業	284	0.53742	153	19	精密機械	360	0.09357	34
02	林業	0	0.66067	0	20	その他の製造工業製品	788	0.15263	120
03	漁業	201	0.25169	51	21	建設	0	1.00000	0
04	鉱業	0	0.06137	0	22	電力・ガス・熱供給	0	0.78596	0
05	飲食料品	2,989	0.33972	1,015	23	水道・廃棄物処理	0	0.98326	0
06	繊維製品	1,014	0.03583	36	24	商業	3,382	0.40105	1,356
07	パルプ・紙・木製品	24	0.20757	5	25	金融・保険	0	0.91957	0
08	化学製品	140	0.18887	26	26	不動産	0	0.99883	0
09	石油・石炭製品	1,824	0.02113	39	27	運輸	11,624	0.65648	7,631
10	窯業・土石製品	78	0.38932	30	28	情報通信	124	0.45710	57
11	鉄鋼	0	0.07474	0	29	公務	0	1.00000	0
12	非鉄金属	0	0.08034	0	30	教育・研究	256	0.80523	207
13	金属製品	0	0.19131	0	31	医療・保健・社会保障・介護	33	0.99510	33
14	一般機械	0	0.11526	0	32	その他の公共サービス	127	0.99361	126
15	電気機械	96	0.07043	7	33	対事業所サービス	220	0.50769	112
16	情報・通信機器	0	0.19236	0	34	対個人サービス	6,246	0.89157	5,569
17	電子部品	0	0.26875	0	35	事務用品	0	1.00000	0
18	輸送機械	0	0.05386	0	36	分類不明	0	0.85749	0
合 計							29,810	—	16,606

図表8 来場者の消費支出による経済波及効果

(単位：百万円)

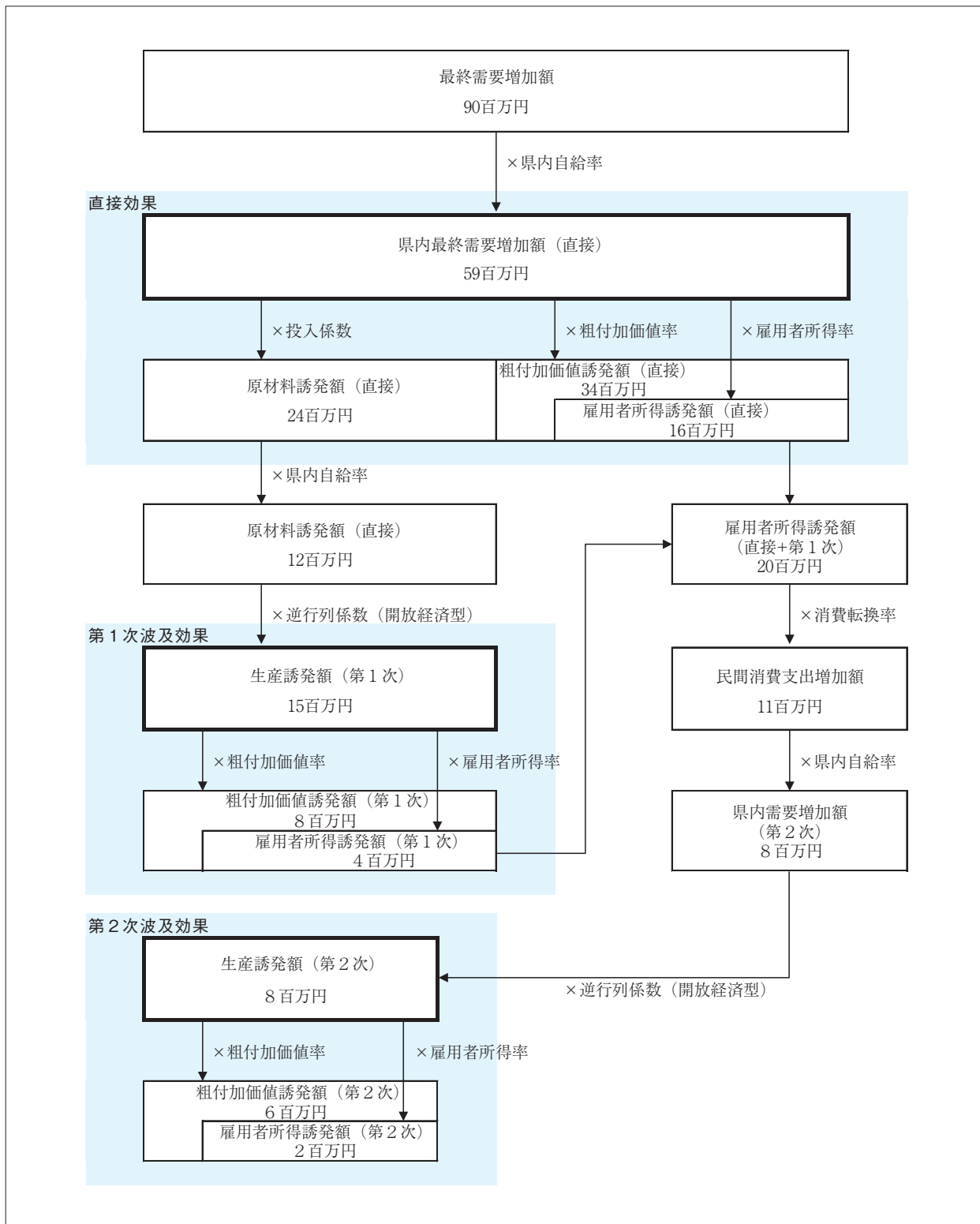
	生産誘発額	粗付加価値額 粗誘発	雇用者所得額 雇用者所得
直接効果	166	90	50
第1次波及効果	211	116	63
第2次波及効果	51	30	20
総合効果	428	235	133

図表9 経済波及効果（チーム運営費支出及び来場者消費支出の合計）

(単位：百万円)

	生産誘発額			粗付加価値誘発額			雇用者所得誘発額		
	合計	チーム運営費より	来場者消費支出より	合計	チーム運営費より	来場者消費支出より	合計	チーム運営費より	来場者消費支出より
直接効果	225	59	166	124	34	90	66	16	50
第1次波及効果	226	15	211	124	8	116	67	4	63
第2次波及効果	59	8	51	36	6	30	22	2	20
総合効果	510	82	428	283	48	235	154	22	133

チーム運営費の支出による経済波及効果フロー（図表 1 参照）



来場者の消費支出による経済波及効果フロー（図表8参照）

